国際研究フォーラム

● 2008（平成 20）年度

「ウェブ経由の神道・日本宗教―インターネット時代の宗教文化教育のゆくえ―」
2008 年 10 月 26 日（日）

〈第一部　研究者フォーラム〉

パネリスト：

Carl Freire（University of California, Berkeley, USA）
Erik Schicketanz（東京大学大学院）
Laurent Godinot（INALCO, France）
岡田昭人（東京外国語大学）
加瀬直弥（國學院大學）
平藤喜久子（國學院大學）

コーディネーター：

黒﨑浩行（國學院大學）

〈第二部　国際研究フォーラム〉

発題 1：Alan Cummings（SOAS, University of London UK）「日本古典芸能の教育におけるインターネットの可能性」
発題 2：Michael Wachutka（Tübingen University, Germany）「ドイツ語圏の日本宗教研究と教育：インターネットは教材・学材として使えるか」
発題 3：Jean-Michel Butel（INALCO, France）「日本の宗教および文化に関する信頼性の高いデータへのアクセスをより良くするために―実践的アプローチの観点から―」

コメンテータ：

師茂樹（花園大学）
渡辺学（南山大学）

司会：

井上順孝（國學院大學）

● 2009（平成 21）年度

「映画の中の宗教文化」
2009 年 9 月 20 日（日）

発題者：

近藤光博（日本女子大学）「映画を教材にして比較宗教の理論的課題を明らかにする―ひとつの試みの報告―」

レスポンデント：冨澤かな（東京大学）
中町信孝（甲南大学）「アラブ歴史映画に見るイスラームとナショナリズム」
レスポンデント：臼杵陽（日本女子大学）
Jolyon Thomas（Princeton University, USA）「西洋から見た日本映画の宗教性」
レスポンデント：櫻井義秀（北海道大学）
Jean-Michel Butel（INALCO, France）「アニメはどんな宗教を語ってくれるか―『平成狸合戦ぽんぽこ』に見る日常宗教―」
レスポンデント：西村明（鹿児島大学）
Gregory Watkins（Stanford University, USA）「宗教と映画を教える際の新しい傾向」
レスポンデント：山中弘（筑波大学）
司会：
井上順孝（國學院大學）

● 2010（平成 22）年度

「イスラームと向かい合う日本社会」
2010 年 10 月 3 日（日）
パネリスト：
三木英（大阪国際大学）「モスクが来た街：地域住民のイスラーム『受容』」
Isam Hamza（Cairo University, Egypt）「イスラムは日本の宗教になり得るか」
Salih Yucel（Monash University, Australia）"Is Islam part of the problem or solution: An Australian immigrant experience?"
Gritt Klinkhammer（University of Bremen, Germany）"Germany - Problems and developments of religious and cultural Integration"
中西俊裕（日本経済新聞社）「イスラム世界との絆―広がる交流のすそ野･産官学を軸に―」
コメンテータ：
師岡カリーマ・エルサムニー（慶應義塾大学・獨協大学・アナウンサー）
司会：
井上順孝

● 2011（平成 23）年度

「デジタル映像時代の宗教文化教育―開かれたネットワークによる取り組み―」
2011 年 10 月 16 日（日）
パネリスト：
織田雪江（同志社中学校・高等学校）「中学校社会科における「宗教文化」の取り上げ方と映像を用いた授業」
岩谷彩子（広島大学）「映像による宗教文化教育の課題―インドを映す映像とその受容のされ方をめぐって―」
Erica Baffelli（University of Otago, New Zealand）「ニュージーランドの大学における

Blended Learning と宗教文化教育―大学ティーチングの再考―」
Alan Cummings（SOAS, University of London, UK）「一回きりの経験の限界：アート教育におけるデジタル動画の活用」
平藤喜久子（國學院大學）「宗教文化の授業とデジタル映像―その可能性と課題―」
コメンテータ：
岩井洋（帝塚山大学）
司会：
黒﨑浩行（國學院大學）
Norman Havens（國學院大學）

● 2012（平成 24）年度

「宗教文化教育の射程―文学と美術をめぐって―」
2012 年 9 月 29 日（土）
パネリスト：
Roberta Strippoli（Binghamton University SUNY, USA）「古典文学のなかの宗教」
有田英也（成城大学）「運命に抗う人びと―宗教で読むカミュの『ペスト』―」
小池寿子（國學院大學）「『死の舞踏』に見るキリスト教的死生観」
Mark MacWilliams（St. Lawrence University, USA）「イエスの再生―映画、マンガ、アニメにおける救世主のポップカルチャー的変容―」
コメンテータ（コメント順）：
加瀬直弥（國學院大學）
伊達聖伸（上智大学）
平藤喜久子（國學院大學）
小原克博（同志社大学）
司会：
井上順孝（國學院大學）

● 2013（平成 25）年度

「ネットワークする宗教研究」
（日本宗教学会第 72 回学術大会 公開学術講演会との共催）
2013 年 9 月 6 日（金）
講演者：
Michael Witzel（Harvard University, USA）"Out of Africa: Tracing Early Mythologies by a New Approach, Historical Comparative Mythology"
長谷川眞理子（総合研究大学院大学）「進化生物学から見た宗教的観念の心的基盤」
芦名定道（京都大学）「現代の思想状況における宗教研究の課題―キリスト教研究の視点から―」
司会：

井上順孝（國學院大學）

「日常生活と宗教文化―戒律をめぐる問題を中心に―」
2014 年 2 月 13 日（木）
基調講演：
Julia Ipgrave（Warwick Religions and Education Research Unit, Centre for Education Studies, University of Warwick, England）
発題者：
Ankita Jain（東京大学大学院）「インド宗教をめぐって」
野田ドリット「ユダヤ教をめぐって」
Haroon Qureshi（ジャパン・イスラミック・トラスト）「イスラームをめぐって」
コメンテータ：
小田淑子（関西大学）
司会：
井上順孝（國學院大學）

● 2014（平成 26）年度

「ミュージアムで学ぶ宗教文化―デジタル時代のチャレンジ―」
2014 年 9 月 27 日（土）
パネリスト：
高橋徹（株式会社 ATR Creative）「地域文化の発見的伝承―スマートフォン時代の文化資料デジタルアーカイブの活用―」
上西亘（國學院大學）「神道・神社博物館の課題と展望―インターネットを中心とした博物館情報・メディア構築について―」
Alan Cummings（SOAS, University of London, UK）「日本文化史の授業とミュージアム―大英博物館の場合―」
Samuel C. Morse（Amherst College, USA）“Religious Art, the Museum, and the Digital Age”
コメンテータ：
牧野元紀（公益財団法人東洋文庫）
司会：
井上順孝（國學院大學）

● 2015（平成 27）年度

「「日本文化」研究の展望」
2015 年 10 月 25 日（日）
発題者：
篠田謙一（国立科学博物館）「DNA で読む日本人の形成史」

Stewart Guthrie（Fordham University, USA）" Religion as Anthropomorphism: A Cognitive Theory"

William Kelly（Yale University, USA）" Is Japan a Lost Cause or a Sustainable Model? An Anthropological Perspective on the Contemporary Society"

河野哲也（立教大学）「アフォーダンスと生態学的倫理学の構築」

コメンテータ：

井上順孝（國學院大學）

司会：

松村一男（和光大学）